

Re-竹楽器を演奏してみよう！@星が丘テラス
-展示イベントで使用した竹の再利用プロジェクト-
槁本雅好研究室（インテリア・プロダクト分野）
企画 和田茜莉



また、星が丘テラスの公式 Instagram や、星が丘テラス ポタジェフルーレマルシェのパンフレットにも掲載していただいた【図14】。



【図14】星が丘テラス Instagram、パンフレット

●アンケート

イベント実施と同時に、来ていただいた方に向けてアンケート調査を行った【図15】。

Q. 再利用を身近で体験していただけたか。



『竹あかり』の廃材を使用して楽器を作成したこと、再利用を体験していただけた方が多かった。

Q. 今回のイベントは楽しんでいただけたか。



【図15】アンケート結果

●まとめ

本企画では、星が丘テラスにて展示されていた『竹あかり』の廃材を利用し、楽器の演奏会というかたちで価値ある再利用をすることができた。企画を通して、楽しんでもらうのは勿論のこと、楽しんでもらう中で竹についての事や音楽についての事など、再利用だけではない学びを参加者に提供することができたと確信している。

本企画の参加者目標人数は二日間で 100 人と設定していたが、実際約 700 人と いう想像を上回る数の人に参加していただけた。本企画のイベントが繁盛したことが、少しでも星が丘テラスのボタニカルプロジェクトに貢献できていたら良いと思う。

また、星ヶ丘はファミリー層が多い反面、子ども遊ばせる場所が少ないため、このような企画は有難いとの感想を多くいただいた。このイベントをきっかけに、今回の『再利用+楽器』のような『学び+遊び』の機会が増えてほしいと考えている。

●背景

3年生の卒業企画実習という授業で星が丘テラスで活動をしていた先輩のお手伝いをした際、ボタニカルというテーマで花壇の花や季節の装飾、マルシェなどのイベントに力を入れていることを知った。活動を続けていくうちに、植物をテーマに掲げている星が丘テラスの取り組みに興味を持った。

●目的

2022年9月、オープン前だったザ・キッチン2入口前にて『竹あかり』【図1】という竹の照明が展示されていた。星が丘テラスの方より、そのイベントで使用した竹の廃材を再利用できないかとお話をいただいたため、廃材を利用できる企画を練ることにした。



【図1】竹あかり

2021年に星が丘テラスでパレットひろばを企画した先輩の資料から、星が丘テラスを利用している人のうちの多くが30・40代のファミリー層で、子どもを遊ばせたいと思っていることが分かった。このことも踏まえ、竹を再利用することで再利用を身近で体験してもらうこと、且つ子連れのファミリー層を中心に楽しんでもらうこととする。

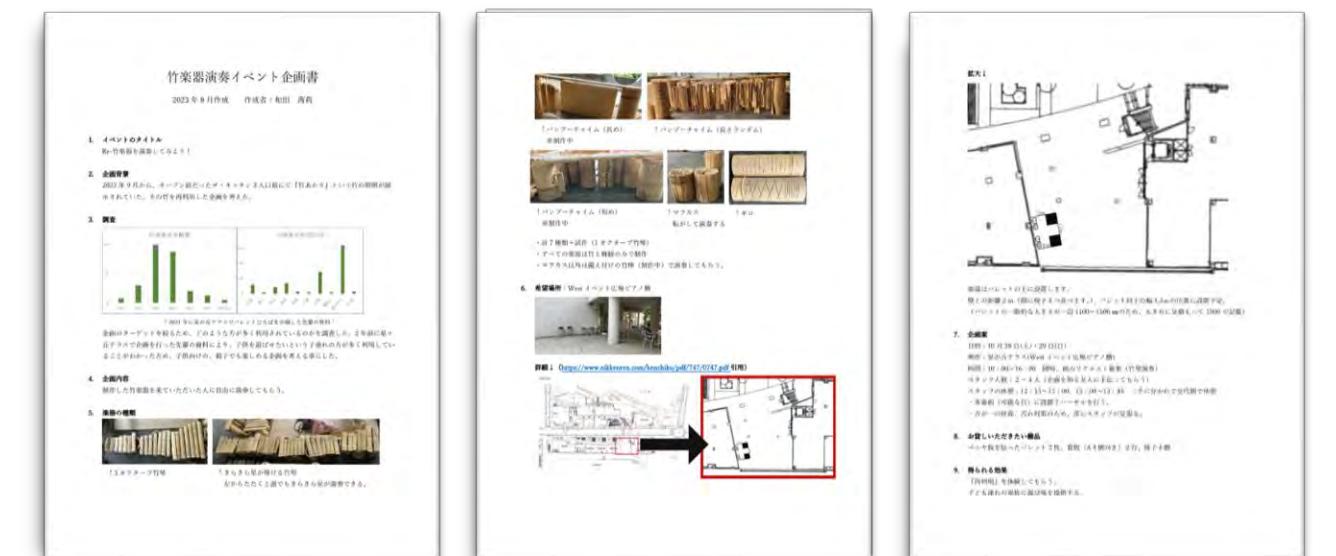
●企画内容

『竹あかり』の廃材を再利用し楽器を制作する。また、制作した楽器を使用したイベントを、星が丘テラスを会場に開催する。楽器を自由に演奏して楽しんでもらうとともに、再利用を身近に体験してもらう。企画案を【図2】に記す。

日時	10月28日(土)・29日(日)
場所	星が丘テラス West1階 葵マルシェ前デッキ
時間	10:00~16:00
スタッフ	2~4人

【図2】企画案

【図3】は実際に提出した企画書である。



【図3】提出した企画書

●スケジュール

本企画は、星が丘テラスを運営している東山遊園株式会社の、マルシェの運営を担当されている星が丘ポタジエ実行委員会の方々と定期的なミーティングを重ねた。スケジュールを【図4】に記す。

3・4月	現地調査
	企画の考案
5月	試作
	本制作の準備
6月	本制作(竹琴)
7月	本制作(マラカス、ギロ)
8月	本制作(バンブーチャイム)
9月	音階の最終確認
	企画書の作成
	実施場所での配置確認
	フライヤーや看板、シフト表の作成
10月	フライヤー・場所の最終確認
	アンケート作成
	装飾品の作成

【図4】年間スケジュール

●制作物

楽器は全部で7種類制作した。



【図5】竹琴：誰でもきらきら星が演奏可能



【図6】竹琴：レからドまで3オクターブ演奏可能



【図7】バンブーチャイム大：長さランダム



【図8】バンブーチャイム中



【図9】バンブーチャイム小



【図10】ギロ



【図11】マラカス：転がして演奏

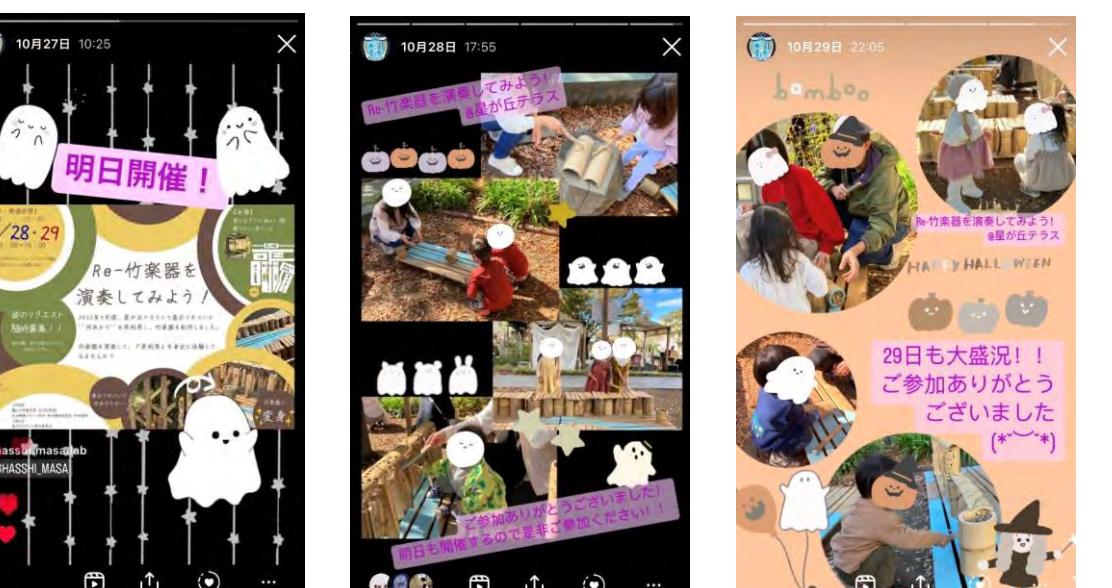
竹琴は一つ一つの鍵盤の音階を合わせ、曲を演奏できるよう調節した。竹に個体差があるため、同じ音が鳴る鍵盤であっても長さが違う場合があることが苦労した。バンブーチャイムやマラカスは使わない材が出ないよう、他の楽器制作時に出た端材を使用している。

●広報

『Re-竹楽器を演奏してみよう!』と題し、フライヤーの作成を行った。竹の輪切りを連想させるデザイン、竹にまつわる色を使用した【図12】。また、作成したフライヤーを使用し、Instagramで宣伝した【図13】。イベントがハロウィンに近かったため、ゴーストなどのハロウィンモチーフを使い親しみやすくした。



【図12】フライヤー



【図13】橋本研究室 Instagram